

# コラーゲンを含む試料の簡便な調製 (6)

池田晃子・中村俊夫

名古屋大学 年代測定総合研究センター 〒464-8602 名古屋市千種区不老町

Tel : 052-789-2578 FAX : 052-789-3092

## 1. はじめに

既報である，池田ほか (1997)，池田ほか (1998)，池田ほか (1999)，池田ほか (2000) 及び池田ほか (2001) に引き続き，極めて保存状態のよい含コラーゲン試料2点が得られたので， $^{14}\text{C}$ 測定を行った結果を報告する。

## 2. 試料調製と加速器質量分析計による $^{14}\text{C}$ 測定

方法は有田ほか (1990) および中村ほか (1996) を改良したものである。試料をカッターナイフで細かく削り出し，アセトンで洗って付着している可能性のある有機化合物を溶かし落としした。次いで1.2N 水酸化ナトリウム溶液に浸して超音波洗浄した。さらに1.2N 塩酸中で超音波洗浄したのち，蒸留水でよく洗って凍結乾燥機を用いて乾燥させた。

乾燥した試料を，約1gの線状酸化銅と共に，あらかじめ1000℃で焼きだした直径9mm，長さ34cmのバイコール管に入れ，真空ラインに接続排気し封管した。これを電気炉内で850℃で約2時間加熱して試料中の炭素を二酸化炭素に変えた。

真空ライン中で，液体窒素 (-196℃) 及び液体窒素で冷却したエタノール (約-100℃) 及びペンタン (-129℃) を寒剤として用いて二酸化炭素を精製した。さらに，約1.5mgの鉄粉末を触媒として，この二酸化炭素を水素還元してグラファイトを作成した (Kitagawa *et al.*, 1993)。出来たグラファイトを乾燥した後，アルミニウム製の試料台に圧入してターゲットを作成した。国際的に標準体として用いられている蓼酸 (NBS-MR-49) を標準体とし (Mann, W. B., 1983; Stuiver, M., 1983)，名古屋大学年代測定総合研究センターに設置されているタンデトロン加速器質量分析計により $^{14}\text{C}$ 測定を行った。

## 3. 結果及び考察

Table 1に，各試料の炭素含有率， $^{14}\text{C}$ 年代及び $\delta^{13}\text{C}$ を示した。両試料とも，現代の生物に由来するものではないと判断される。

表1 含コラーゲン試料の炭素含有率,  $^{14}\text{C}$ 年代及び  $\delta^{13}\text{C}$ Table 1 Carbon content,  $^{14}\text{C}$  age and  $\delta^{13}\text{C}$  of collagen containing samples

Sample No.	C content / %	$^{14}\text{C}$ age / BP	$\delta^{13}\text{C}$ by Tandetron II/ ‰
IVORY-36	52.5	28830 ± 160	-26
IVORY-37	49.7	27960 ± 160	-31

measurement error of  $\delta^{13}\text{C}$  : ±1‰

## 引用文献

- 有田陽子・中井信之・中村俊夫・亀井節夫・秋山雅彦・沢田 健 (1990) 哺乳類化石のコラーゲン抽出法とそのAMS法による $^{14}\text{C}$ 年代測定. 名古屋大学古川総合研究資料館報告, 6, 45-54.
- 池田晃子・中村俊夫 (1997) コラーゲンを含む試料の簡便な調製. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, VIII, 254-257.
- 池田晃子・中村俊夫 (1998) コラーゲンを含む試料の簡便な調製(2). 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, IX, 304-307.
- 池田晃子・中村俊夫 (1999) コラーゲンを含む試料の簡便な調製(3). 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, X, 243-246.
- 池田晃子・中村俊夫 (2000) コラーゲンを含む試料の簡便な調製(4). 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XI, 239-242.
- 池田晃子・中村俊夫 (2001) コラーゲンを含む試料の簡便な調製(5). 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XII, 220-222.
- Kitagawa, H., Masuzawa, T., Nakamura, T. and Matsumoto, E. (1993) A batch preparation method of graphite targets with low background for AMS  $^{14}\text{C}$  measurements. *Radiocarbon*, 35, 295-300.
- Mann, W. H. (1983) An international reference material for radiocarbon dating. *Radiocarbon*, 25, 519-527.
- 中村俊夫・大塚裕之・奥野 充・太田友子 (1996) 東シナ海の大陸棚および琉球弧の海底から採取された哺乳類化石の加速器質量分析法による $^{14}\text{C}$ 年代測定. 地学雑誌, 105, 306-316.
- 中村俊夫・中井信之 (1988) 放射性炭素年代測定の基礎 — 加速器質量分析法に重点をおいて —. 地質学論集, 29, 83-106.
- Stuiver, M. (1983) International agreements and the use of the new oxalic acid standard. *Radiocarbon*, 25, 793-795.
- Stuiver, M. and Polach, H. A. (1977) Discussion reporting of  $^{14}\text{C}$  data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.

## A Simple Preparation of Collagen Containing Samples(6)

Akiko IKEDA and Toshio NAKAMURA

Center for Chronological Research, Nagoya University.

Chikusa, Nagoya 464-8602 JAPAN

Tel: +81-52-789-2578 FAX: +81-52-789-3092

We measured carbon content,  $^{14}\text{C}$  age and  $\delta^{13}\text{C}$  of 2 collagen containing samples which were prepared by a simple preparation method. We cut off small pieces from each sample with a cutting knife, washed with acid-alkali-acid method and combusted them to produce  $\text{CO}_2$ , instead of collagen extraction.

Both samples showed low  $^{14}\text{C}$  content, showing they are fossil samples not affected by nuclear bomb effect.